

コロナ禍で輸出規制、 自給率 37%の日本でいいのか

新米価格の暴落で、離農加速の懸念
田んぼは荒れ、多面的機能の喪失



コロナ危機を放置し米価暴落

新型コロナウイルス感染拡大により、米の消費の 22 万トンの「消滅」により、持ち越し在庫が増え、2020 年産の新米価格が 1,000 円／1 俵（60 ㌔）以上も下落しています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は深刻化・長期化が予想され、さらなる下落も懸念されています。

いま国に求められるのは、コロナ禍という緊急事態にふさわしい実効ある「出口対策」、すなわち政府備蓄米への追加買い入れを行うことです。



離農が進み、多面的機能の喪失

国が何の対策も行わず、米価暴落となれば、生産基盤が弱体化しているなかで、全国で離農がさらに進むことは火を見るより明らかです。田んぼが荒れれば、米の生産が減少にとどまらず、ダム機能が失われるなど農業の持つ多面的な機能も失われ、河川の氾濫、浸水被害が広がりかねません。



コロナ禍で輸出規制、自給率 37%の日本でいいのか

コロナ禍は、世界同時多発で発生し、農業生産に重大な影響をもたらし、主要な米麦輸出国が輸出禁止や規制に乗り出しています。日本では、辛うじて食料品の品切れは起きていませんが、食料と労働力を海外に依存するリスクが現実のものになっています。さらに、輸出制限や農業生産の混乱が拡大すれば、カロリー自給率 37%、穀物自給率 28% の日本への打撃は計り知れません。

食料自給率向上へ、国は国民の主食・米の需給と価格の安定に責任をもって対策を講じるべきです。

国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会（全国食健連）

〒151-0053 渋谷区代々木 2-5-5 新宿農協会館 3階

電話：03-3372-6112 FAX：03-3370-8329 Eメール：center@shokkenren.jp

【取り扱い団体】